



啐啄同機

鶴岡市立藤島中学校
令和8年5月28日発行
教育精神「高志」
「啐啄同機」

沖縄修学旅行を実施しました【3年】

5月13日から15日までの2泊3日で、3年生が沖縄修学旅行を行いました。今回の修学旅行では、沖縄の歴史や文化、自然に直接触れるとともに、仲間とのつながりを深める大切な機会となりました。

沖縄では、戦争の歴史について学ぶ場にも多く足を運びました。「系数アブチラガマ」や「平和祈念公園」、「ひめゆり平和祈念資料館」では、現地の方のお話や展示を通して、戦争の現実や平和の大切さについて一人ひとりが真剣に向き合う姿が見られました。さらに、ひめゆり学徒隊の生存者の方のお話の映像も見せていただき、想像を絶するような苦悩や過酷な状況があったことが強く伝わってきました。学校で事前に学んできたことに実際の体験が重なり、より深い学びとなったようです。



生徒からは、「戦争の悲惨さをこれまで以上に強く感じた」「平和は当たり前ではなく、とても大切なものだ実感した」といった声が多く聞かれました。また、「今生きていることや、日常や食事の一つ一つがとてもありがたいことだと感じた」といった感想も見られ、いのちや生活への見方が深まっている様子うかがえました。

また、「首里城公園」や「美ら海水族館」の見学、「むら咲むら」での体験活動では、沖縄ならではの文化や自然の魅力を感じることができました。班ごとの活動では、声をかけ合いながら協力し、それぞれが役割を果たそうとする姿が印象的でした。



ホテルでの生活や班会・学級会などを通して、互いを思いやりながら過ごす様子が見られ、仲間との絆がさらに深まった3日間となりました。

旅行中には、生徒たちの姿が外部の方々からも高く評価される場面がありました。ひめゆり平和祈念資料館では、一般の観光客の方から「山形の中学校の修学旅行だそうですが、素晴らしいですね。ディズニーランドに行くよりも、ずっと大切なことを学んでいるね」といった温かい言葉をいただきました。また、宿泊先のホテルでは、ゴミの分別について自ら質問した生徒の姿に対し、「そのような気遣いができる生徒さんは、あまりいらっしゃらないものです」とお褒めの言葉をいただきました。生徒たちの学ぶ姿勢だけでなく、周囲への配慮やマナーの面でも成長した姿が見られました。

班活動や集団行動においては、多くの生徒が「周りを見て行動する力が身についた」「時間を意識して行動できるようになった」と振り返っており、今回の経験を通して主体性や協調性の向上が見られました。

今回の修学旅行では、ほぼすべての活動で時間を守ることができ、体調不良になる生徒もいませんでした。安全で充実した活動が実現できたことは、生徒一人ひとりの意識の高さと成長の表れといえます。

この修学旅行での学びや経験を、これからの学校生活や日常に生かしていけることを願っています。



WAKUWAKU WORK 実施しました(2年)

5月14日、第2学年では、総合的な学習の時間として「WAKUWAKU WORK」を実施しました。本活動は、地域の企業・団体(16社)のご協力をいただき、校内で仕事体験を行う学習です。実施にあたっては、事前に企業について調べ学習を行い、仕事の内容や特色について理解を深めました。その上で本番の体験活動に臨み、生徒たちは企業ごとに分かれて、実際の仕事内容に触れたり、働く方々に質問したりするなど、主体的に学習に取り組みました。



当日は、生徒一人ひとりが「体験を通して何を学びたいか」という目標を考え、それを名刺形式にして企業の方へ手渡しました。この取組は、「意欲が感じられてうれしい」と企業の方からも大変好評で、生徒にとっても目的意識をもって体験に臨むよい機会となりました。

建設・設計、製造業、金融機関、福祉・医療、電気・水道といったインフラ関係など、多岐にわたる職業分野の体験が行われました。例えば、3Dソフトを使った設計体験やものづくり体験、水道管の接続作業、銀行業務に関する活動、車いす体験など、生徒にとっては普段なかなか触れることのできない貴重な内容ばかりでした。

こうした体験を通して、生徒たちは「仕事は人々の生活を支えている」「地域にはさまざまな役割を持つ仕事がある」ということを実感し、社会とのつながりについて理解を深めることができました。また、企業の方へのインタビューでは、「挑戦すること」「お客様に喜んでもらうこと」「仲間との協力」が大切であるという話を聞き、働く上で必要な姿勢についても学びを得ることができました。

活動後は、班ごとに体験内容をまとめ、プレゼンテーション発表を行いました。発表では、仕事の魅力や苦労、学んだことを分かりやすく伝えようと工夫する姿が見られました。生徒からは、「将来の選択肢が広がった」「社会に貢献できる仕事に就きたい」「コミュニケーションの大切さを実感した」など、自分の生き方や将来について前向きに考える感想が多く聞かれました。



今回のWAKUWAKU WORKは、生徒一人ひとりが地域と関わりながら、自分の将来を見つめる大変貴重な機会となりました。引き続き、本校では地域と連携した学びを大切にしながら、生徒の主体的な成長を支えてまいります。

最後に、ご多用の中ご協力いただきました地域の企業・団体の皆様に、心より感謝申し上げます。

庄内農業高校で農業体験を行いました(1年)

5月14日、1年生は庄内農業高等学校を訪問し、農業体験学習を行いました。

当日は、庄内農業高校の生徒の皆さんに説明を受けながら、9つのグループに分かれて体験活動を行いました。

体験内容は、田植えや野菜の植え付け、ブドウの栽培管理といった農作業のほか、発酵食品づくりや米粉を使った調理など、多岐にわたるものでした。

生徒たちは、高校生の丁寧な指導のもと、普段の学校生活では味わえない貴重な体験に真剣に取り組みました。また、仲間と協力して活動する中で、学び合う姿や積極的に質問する姿が多く見られました。

活動後には代表生徒が感想を発表し、「農業の大変さとやりがいを感じた」「食べ物大切さを改めて実感した」といった声が聞かれました。今回の体験を通して、生徒たちは地域の農業や食の重要性について理解を深めるとともに、自分の将来や進路について考えるよい機会となりました。

ご指導いただいた庄内農業高校の皆さまに心より感謝申し上げます。

農業をもっと知ろう

藤島中 庄内農高で体験学習



鶴岡市の1年生62人が14日、同市の庄内農業高を訪れ、

鶴岡市藤島中(五十嵐章雄校長) 農業や食の開発などを体験した。

5月18日 山形新聞

よつと、体験学習を企画し

ブドウ栽培の作業を体験する生徒たち 川鶴岡市

た。9班に分かれた生徒たちは、庄内農高の2年生や教諭のアドバイスを受け、田植え作業や米粉のお菓子作り、ドライフラワーアレンジメントなどに挑戦した。このうち水稲種苗ハウスを利用したブドウ栽培では、シャインマスカットなどのつるをひもで固定する「誘引」や水やりに取り組んだ。田植え機に乗車した飯塚啓太さん(17)は「思った以上にハンドル操作が大変で、おいしいコメを作る大変さが分かった」と話していた。(相原健佑)

(文責：校長)